

令和元年度（第 25 期）にいがた市民大学

「多様な地域・家族の形から『子育て支援』を学ぶ」公開講座

「地方の子育て支援を考える～だから、地方で子育てしたい～」 実施概要

【会 場】 新潟市民プラザ（新潟市中央区西堀通 6 番町 866 N E X T 21 ビル 6 階）

【日 時】 令和元年 9 月 27 日（金） 午後 7 時～午後 9 時

【講 師】 関西大学人間健康学部

教授・学部長 山縣 文治 氏

【参加者】

計 71 名

（内訳）

- ・講座受講生 30 名
- ・一般参加者 41 名



【内 容】

講演会では、最初に新潟県の状況として県内市町村の人口動態を取り上げ、市町村ごとに地域差があることから、子育て支援は市町村単位で考える必要があり、さらに地方の子育て支援とは、まちをどう残していくのかということであると説明しました。

また、就学前の子では全体の 35%、3 歳未満児では 65%が保育所やこども園、幼稚園等に通っておらず、家で母子が息詰まる生活をしていると指摘しました。その中で、重要な視点として、誰もが経験のないことはできないものであり、女性は生まれながらにして本能で子育てができるものではなく、知識で補うのが今の子育てであり、覚えていくものであると子育て支援の必要性を話しました。

また、子育て支援と地域社会との関わりは、地域（地縁）と仲間（知縁）を“チェーン”で結び、ネットワークやつながりをつくるのが、子育て支援の活動であると述べました。

山懸先生は随所にユーモアを交えて講演しながら、受講された皆さんからは「話を聞くだけでなく自分で考える講座でした」「これから私たちが地域で活動していく上で必要なお話でした」といった感想が寄せられました。

